



ニッポン名城 技めぐり

城から学べる
“Construction”



Vol. 11

豊臣政権時代

徳川政権時代(慶長年間)

徳川政権時代(元和年間以降)

幕末*

江戸時代末期、外国船の来航を機に、海外からの脅威に備えるための城や砲台を建設

松前城

所在地 北海道松前郡松前町

築城年 1850(嘉永3)年

築城主 松前崇広

保存状態 明治維新後、天守と本丸櫓門だけを残してすべての建築物が破却された。天守は国宝として保存されていたものの、1949(昭和24)年の火事で全焼。1961(昭和36)年にRC造で復元された。江戸時代から現存するのは櫓門と御殿玄関のみである。

海防強化のために築城された、国内最後の近世城郭

1606年、松前藩初代藩主だった松前慶広が自らの居館としてこの地に「福山館」を建てたが、この時点では陣屋であり、城の体をなしていなかった。幕末になってロシア船の到来が増えたことから、海防強化の一環として幕府が新城建設を決定。慶広の子孫である第12代藩主・松前崇広が、福山館を拡張する形で築城した。当時の軍学の第一人者・市川一学が縄張を担当した巨大城郭だったが、外観重視で城背面の防御を考慮していなかったため、戊辰戦争の際はここを守備した新政府軍が土方歳三率いる旧幕府軍に背後を攻略され、あえなく落城してしまった。



現存する本丸櫓門の内側。正面から見ると立派な2階建ての櫓だが、裏はコストダウンのために簡素な構造になっており、2階がない

続きは動画をチェック!



日本の建築史を専門とする広島大学名誉教授・三浦正幸教授の解説動画をこちらからご覧いただけます。

三浦正幸教授…東京大学工学部建築学科卒。建築学者、工学博士、一級建築士。NHK大河ドラマの建築考証担当、城郭や社寺建築に関する著書多数。

